

1. 授業の概要(ねらい)

学生諸君は大学入学までに、歴史科目の学習にかなりの時間を費やしてきたことと思う。ただし、大学で学ぶ歴史学は必ずしもその延長線上には位置しない。歴史学とは本来、教科書や参考書、あるいは授業の中で扱われる歴史的知識をただ受動的に暗記するだけの学問ではない。過去の人々が遺した種々の歴史資料をもとに、さまざまな知見(社会学・政治学・経済学など)や自らの想像力を駆使して、過去を積極的に復元しようとするものである。本講義では、そのような本来の歴史学の方法論について、実例をもとに考えていきたい。

2. 授業の到達目標

- ・歴史資料の扱い方を理解する
- ・歴史資料を扱う際に注意すべきことを理解する
- ・過去の出来事を復元する過程で、さまざまな問題意識を抱くことができる

3. 成績評価の方法および基準

- ・平常点(授業態度など)40%
- ・授業内試験60%

4. 教科書・参考文献

参考文献

「世界の歴史」編集委員会編 『新もういちど読む山川世界史』 山川出版社
五味文彦・鳥海靖編 『新もういちど読む山川日本史』 山川出版社
大学の歴史教育を考える会編 『わかる・身につく歴史学の学び方』 大月書店

5. 準備学修の内容

- ・授業終了後、配布プリントなどを見直し、授業内容の概要について振り返るクセをつけておくこと

6. その他履修上の注意事項

- ・私語など、他の受講者の迷惑になるような行為は控えること
- ・授業内容をただ聴呑みにするのではなく、その中から積極的に疑問点や問題点を探し出すように努めること

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス
- 【第2回】 歴史教科書から歴史学を探してみる1—歴史的背景とは
- 【第3回】 歴史教科書から歴史学を探してみる2—人物の行動原理
- 【第4回】 歴史教科書から歴史学を探してみる3—より広い視点で
- 【第5回】 歴史教科書の内容を見直してみる1—事件・出来事
- 【第6回】 歴史教科書の内容を見直してみる2—人物評価
- 【第7回】 複数のまなざしで歴史を見つめる1—支配者と被支配者
- 【第8回】 複数のまなざしで歴史を見つめる2—敵と味方
- 【第9回】 造られた歴史を暴いてみる1—自分たちを正当化する歴史
- 【第10回】 造られた歴史を暴いてみる2—偉人のキズを隠す歴史
- 【第11回】 神話と歴史—ファンタジーは歴史学に使えるのか
- 【第12回】 文学と歴史—文学作品は歴史学に使えるのか
- 【第13回】 歴史から現代の問題を考えてみる1—自由と平等の相克
- 【第14回】 歴史から現代の問題を考えてみる2—正義と格差の源
- 【第15回】 総括と試験